

別添資料



ご家庭など低圧供給のお客さまへの スマートメーター導入台数の1,000万台突破について

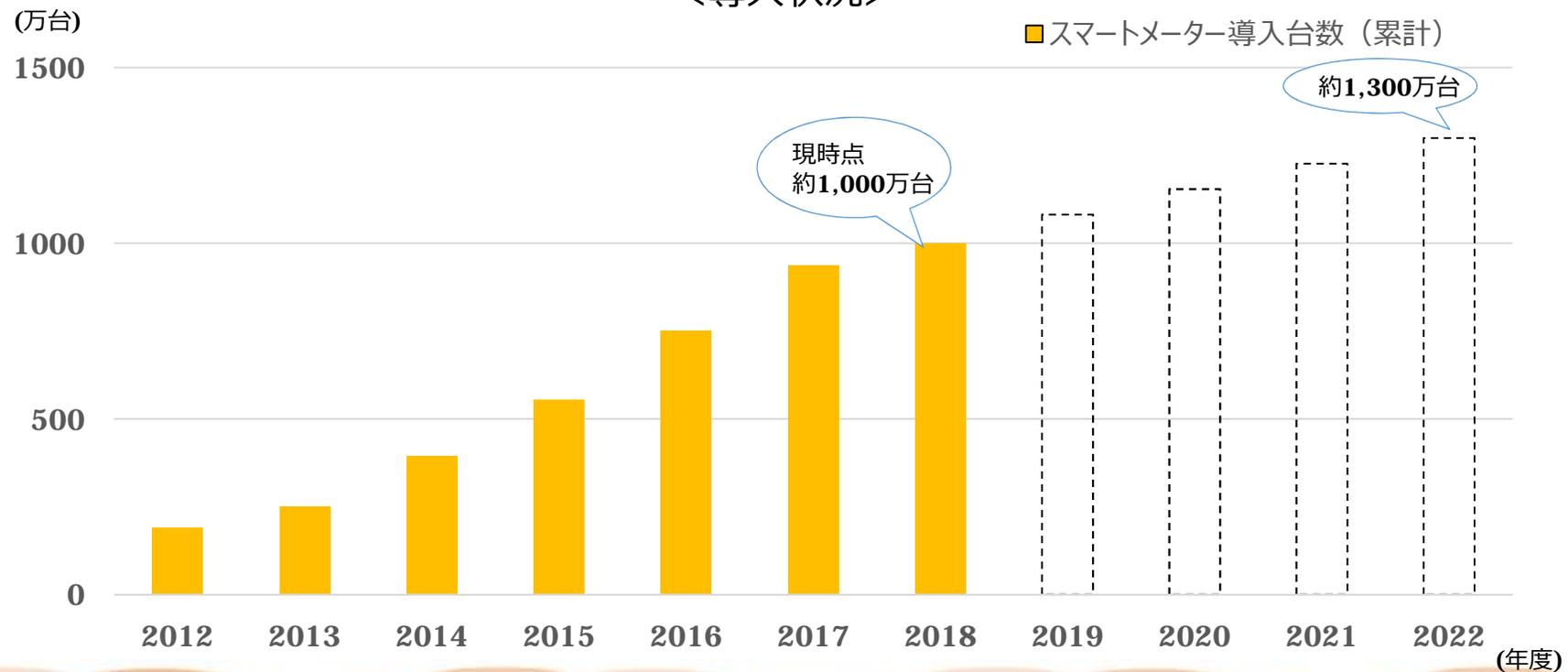
2018年9月26日
関西電力株式会社



スマートメーターの導入経緯

- 当社はメーター交換時の作業安全確保や関連業務の効率化などを目的とし、全国でスマートメーター導入の議論が本格化する以前の1999年より、技術開発や導入に向けた検討を開始。
- 2008年度から導入を開始したスマートメーターの導入台数は、**1,000万台**を突破。
- 2022年度末までに低圧受電のお客さま全数となる約**1,300万台**を導入予定

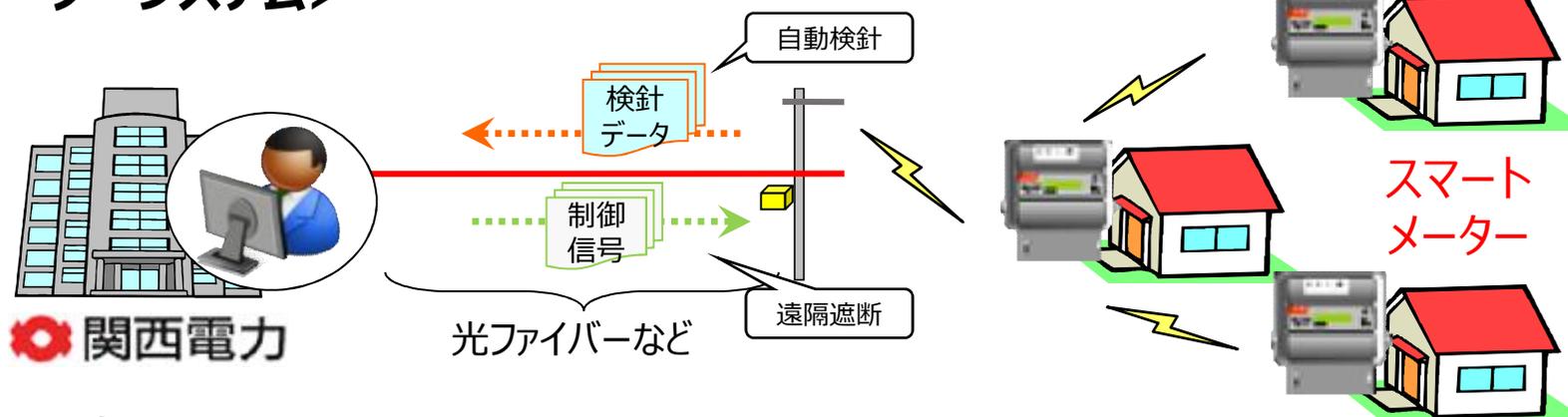
<導入状況>



スマートメーターの概要 ～ユニット式メーター～

お客さまのご家庭に設置しているメーターに通信機能を持たせ、光ファイバーなどの通信ネットワークを活用して、メーター周辺業務を事業所から遠隔で実施するシステム

<スマートメーターシステム>



<ユニット式メーター>



- 通信ユニット**
 - ・30分単位に計量値を蓄積、伝送
- 計量ユニット**
 - ・使用電力量を計量、表示
 - ・検定有効期間満了に伴う取替時計量ユニットのみ取替で対応可
- オプションユニット**
 - ・スイッチの自動入切機能
 - ・電圧測定機能

メーターの充停電状態が把握可能

30分毎の電気使用量が把握可能

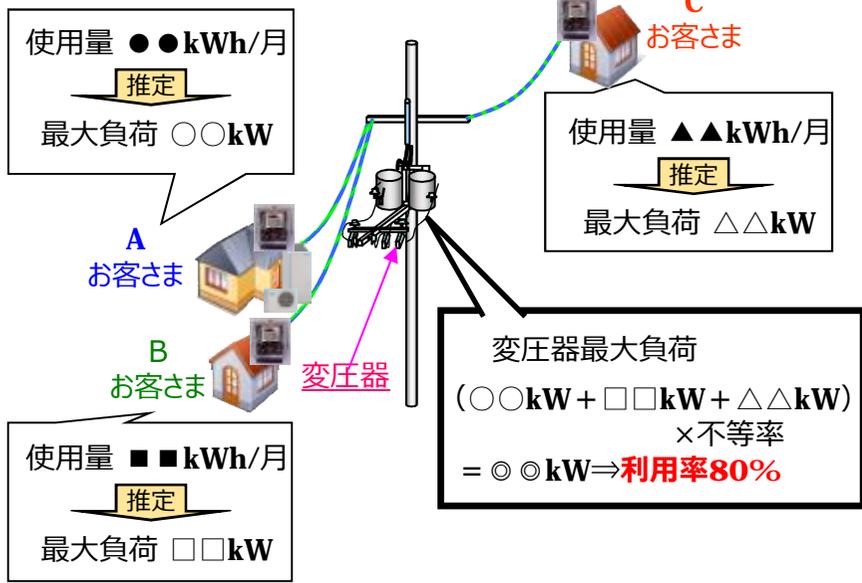
遠隔で電気の入切が可能

配電設備形成の合理化

スマートメーターデータを活用し、変圧器等の設備容量を負荷実態に応じて選定

スマートメーターシステム導入以前
(月間使用量を用いた最大負荷想定)

<イメージ図>



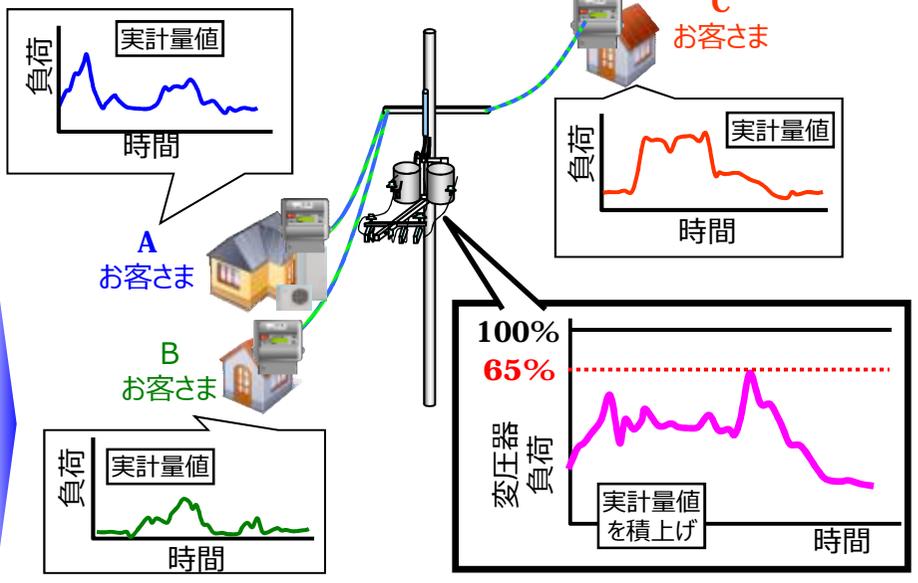
“推定”利用率
80%

現行と同容量の
変圧器に取替可

- ・月間使用量から負荷の最大値を想定して管理
- ・その管理値をもとに設備の容量を選定

スマートメーターシステム導入後
(30分値を用いた最大負荷算定)

<イメージ図>



利用率
65%

ワンランク下の容量の
変圧器に取替可

- 30分値を用いて設備更新時等※に、お客さま毎の実負荷にもとづく適切な設備容量を選定し、**設備投資を抑制** ※変圧器、引込線、計器等

変圧器故障や断線などにより変電所の継電器が動作しない部分的な停電（低圧不点）に対して、スマートメーターデータをもとに、充停電を特定

(例) 変圧器故障による停電

